

実習指導者育成ワーキング

実習指導者育成ワーキング（以下実習指導者育成WG）は、

平成26年度より臨地実習現場での実習指導の質の向上を目的としてスタートし、今年度8年目を迎えた。

【WG構成メンバー】14名

WG長（看護師長）、看護師長2名、副看護師長5名（内2名教育担当）
実習指導経験のある看護師6名（途中交代あり）

- 目標
- ①実習指導者会議の企画・運営・評価を行い、
実習指導に伴う課題に対し、改善に向けて取り組む。
 - ②実習指導者以外のスタッフに対し、
実習指導要綱の活用を促進することができる。
 - ③臨地実習指導者研修会の企画・運営・評価を行い、
効果的な指導ができる実習指導者を育成する。
 - ④看護学生への実習指導の質を担保することができる。

実習指導者が企画した 指導者育成プログラム

令和3年度実習指導者育成ワーキング

実習指導者育成ワーキング

R3年度実習指導者WG活動計画

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実習指導者育成WG		WG活動計画立案	研修会内容の検討、 研修会への準備（相違点評価）			見直し、改訂	実習指導体制の課題 抽出、改善点検討				研修会評価（全体） 本年度研修会企画 と振り返り評価	学生アンケート WG活動評価
実習指導者会議	運営・評価 ①今年度の活動計画	福岡女学院看護大学 実習説明会	福岡看護大学 実習説明会	福岡看護大学 実習説明会	福岡看護大学 実習説明会	九州大学保健学科 実習説明会	福岡看護大学 実習説明会	福岡看護大学 実習説明会	福岡看護大学 実習説明会	九州大学保健学科 実習説明会	福岡看護大学 実習説明会	福岡看護大学 実習説明会
実習指導者研修会		①ガイダンス・研修の原理	②教育原理	③看護過程・事例検討	④実習指導計画	⑤カンファレンスの方法・事例検討				⑥まとめ		事後アンケート 集計・分析 報告書作成
アドバンス実習指導者		①看護部長講演	②ガイダンス・看護の原理			③看護学生の現状						④まとめ

実習指導者育成ワーキング

R3年度実習指導要項改正スケジュール

項目	時期						
	6月	7月	8月	9月	10月	11月-1月	2月
はじめに	WGで検討				保健学科にて修正箇所の確認		
目次							
I. 九州大学病院における実習指導							
II. 臨地実習における役割							
III. 実習で経験できるマトリックス							
IV. 基礎看護学実習 I	「保健学科提示」箇所を 保健学科にて検討				印刷工程		完成 各部署へ配布
V. 基礎看護学実習 II							
VI. 成人・老年看護学実習							
VII. 小児看護学実習 II							
VIII. 母性看護学実習							
IX. 精神看護学実習							
X. 助産学実習							

実習指導者会議

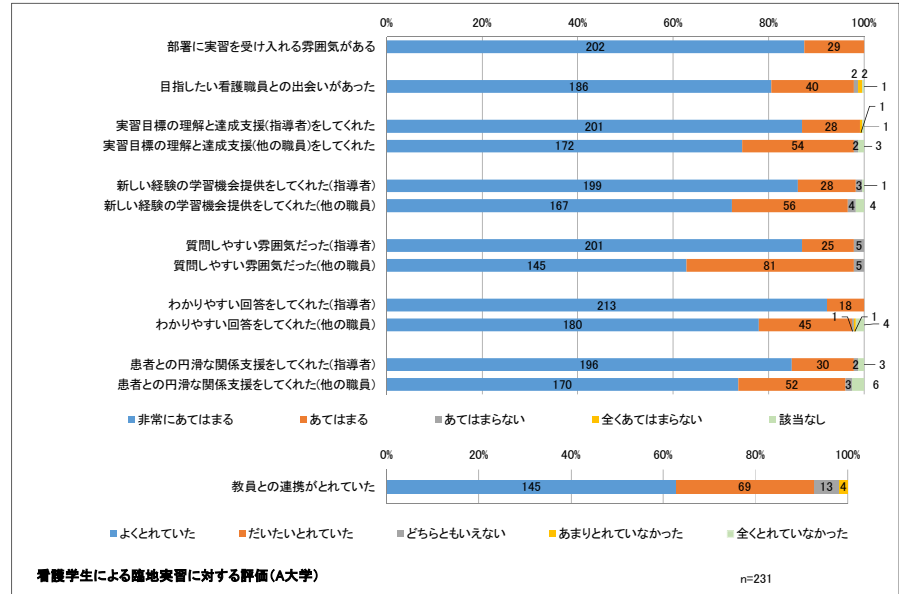
- 目的 実習内容及び実習指導に関する事項を検討し、併せて実習指導者の資質向上を図る
- 目標 ①学生への教育的・効果的指導のあり方を検討し、実習指導に活用することができる。
 ②実習指導体制の課題を抽出することができる。
 ③実習指導に関わる問題を抽出し、対応策を実施することができる。
 ④実習指導要項の見直しを行い、活用を促進することができる。

期	1	2	3	4	5							
月	4/23	4月24日 5月	6月	7/30	7月	9/3	9/24	10/22	11/26	12月	令和4年 1/28	2/25
内容	1. 会議構成について 2. 会議開催場所について 3. 会議日時について 4. 令和3年度実習指導者会議活動 5. 実習指導要項の見直し 6. 実習指導要項の見直し 7. 2024年度実習指導要項について 8. 実習指導者会議活動計画について 9. 看護学生受け入れ計画について 10. 令和4年度実習学生アンケートについて 11. その他	〇〇大学 実習指導者説明会 各病棟にて	△△大学 実習指導者説明会 各病棟にて	△△大学 実習指導者連絡会 グループワーク	〇〇大学 実習指導者連絡会 各病棟にて	△△大学 実習指導者連絡会 各病棟にて	□□大学 実習指導者連絡会 各病棟にて	〇〇大学 実習指導者説明会 各病棟にて	〇〇大学 実習指導者説明会 各病棟にて	△△大学 実習指導者説明会 各病棟にて	△△大学 実習指導者説明会 各病棟にて	△△大学 実習指導者説明会 各病棟にて

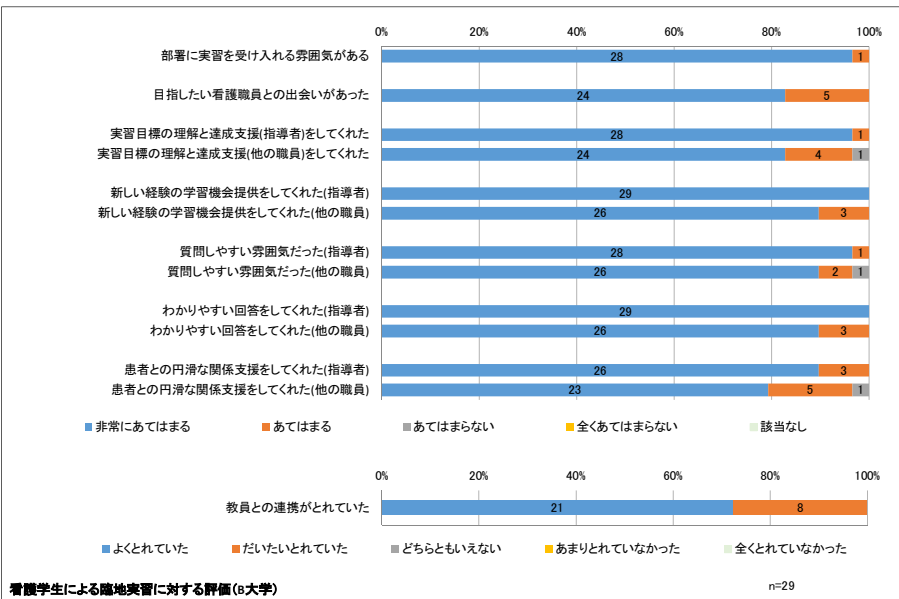
WGメンバーが会議の企画・運営に参画し、グループワークではファシリテーターとして参加した。
 臨地実習の場における実習指導困難事例に関するワークを行い、情報共有と対応策の検討を行った。

実習指導要項の活用状況と活用促進のための対策を検討した上で、各部署で指導要項の見直しを行い改正内容を検討した。

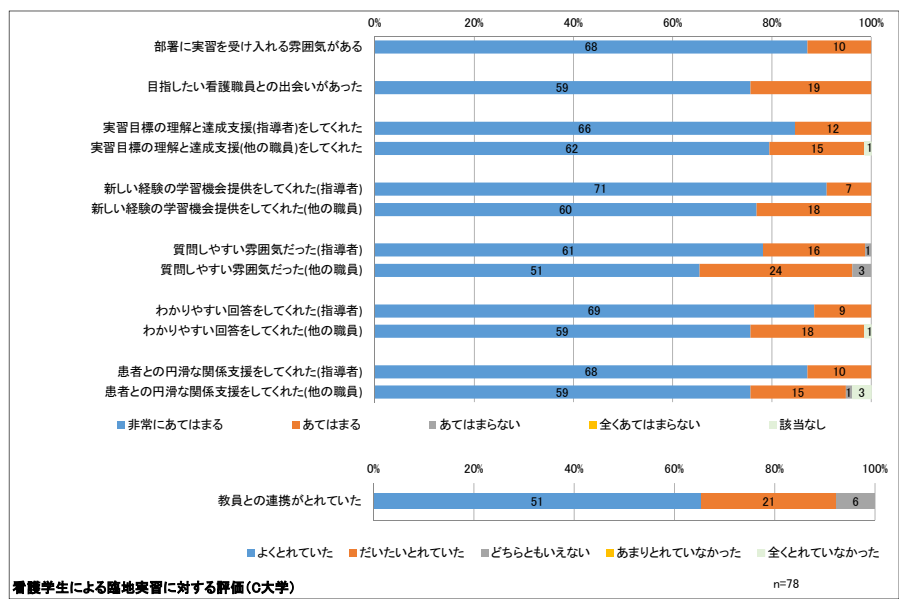
実習指導者会議—学生アンケート結果—



実習指導者会議—学生アンケート結果—

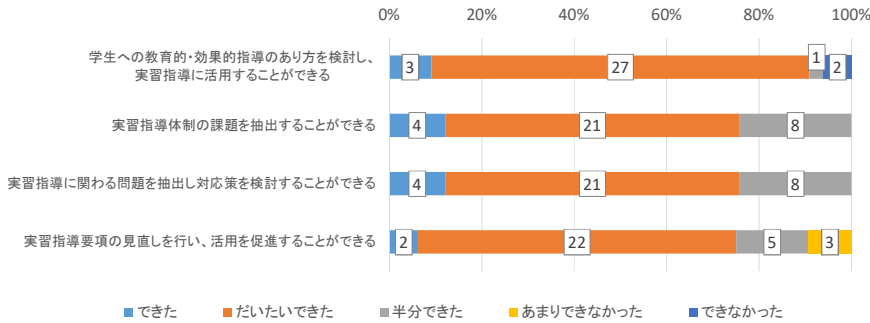


実習指導者会議—学生アンケート結果—



実習指導者会議

目標評価



評価まとめ

実習指導者会議構成員として、部署での課題や対応策についての検討について70%以上が「できた」「だいたいできた」と評価していた。実習指導要項の活用促進について、「できた」「だいたいできた」は70%以上評価していた。今年度実習指導要項の改正を行ったことで、実習指導要項への内容の把握や指導時に活用できていた。

臨地実習指導者研修会

- 目的 ①看護教育における実習の意義及び実習指導者としての役割を理解し、効果的な実習指導ができるよう必要な知識を習得する。
②自己の看護観の再構築と実習指導者像の形成を目指す。

対象者：新たに臨地実習指導者となる看護職員52名

九州大学医学研究院の教員及び人間環境学研究院の教員と協働で開催

回	月	テーマ
1	5月	ガイダンス 人事交流者の経験談
		看護教育課程 実習指導の原理
2	6月	教育原理 教育方法① 教育方法②
3	7月	看護過程
4	8月	実習指導計画 実習指導の評価
5	9月	カンファレンスの指導方法
6	1月	まとめ

WGメンバーとして事例の作成、研修スケジュール作成、ワークシート、発表形式の検討、当日の運営、司会担当などを検討、実施

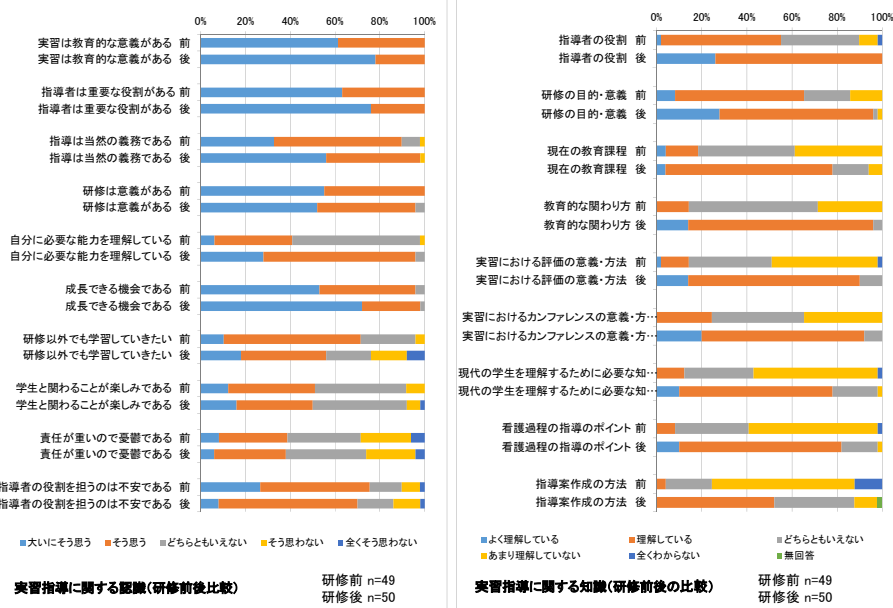
第3回・第5回実習指導における困難事例の検討

目標「事例検討を行い、多角的な視点から問題点を分析できる」
「学生指導の多様なアプローチを見出し、他者と共有できる」

参加者の学びや感想

- ・グループワークをすることで、一人では思いつかなかった具体的な計画をたくさん案がでて学ぶことができて良かった。
- ・実際にありそうな内容を検討できて、自分が対応する時にどうすべきか考える機会になって良かった。

臨地実習指導者研修会－アンケート結果－



臨地実習指導者研修会－アンケート結果－

	教師効力尺度得点 (研修前後データの比較)	
	研修前 n=49	研修後 n=50
	平均値	±標準偏差
【総合得点】		
研修前	73.7	10.3
研修後	89.1	11.2
【カンファレンスを実施できる自信】		
研修前	12.3	2.1
研修後	15.6	2.3
【看護実践能力を活用できる自信】		
研修前	11.4	1.9
研修後	13.0	1.7
【学習者として学生を尊重する自身】		
研修前	14.5	2.5
研修後	16.5	2.3
【学びを深めるために技法を活用できる自信】		
研修前	10.3	1.8
研修後	12.7	2.0
【実習教育の準備ができる自信】		
研修前	10.4	1.6
研修後	12.8	1.8
【学生の状況を判断できる自信】		
研修前	7.4	1.5
研修後	9.2	1.3
【学生の学びを促進できる自信】		
研修前	7.3	1.4
研修後	9.2	1.5

「臨地実習における学生の学習にどの程度効果的な影響を及ぼすことができるかという信念」に関する変化をみるために、「臨地実習に対する教師効力尺度(坪井ら、2001)」を用い、研修前後における比較を行った。

研修前と比べ研修終了時は、教師効力得点が上昇し、7つの下位因子においても、全ての項目で得点が上昇していた。学生への具体的実習指導において、自信をもって行うことができているといえる。

今年度も、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、研修体制の変更や研修時間を短縮して開催した。しかし、例年と同様に研修後の教師効力尺度得点は上昇しており、研修内容の変更が影響することなく学びの効果を確認することができた。

臨地実習指導者研修会—アドバンスコース—

目的：看護教育における実習の意義及び実習指導者としての役割を再認識し、

実習指導に活かす

対象者：条件を満たし推薦を受けた看護職員29名

回	月	テーマ
1	4月	看護部長講演 「九州大学病院看護部の活動について」
2	5月	ガイダンス 人事交流者の経験談 看護教育課程 実習指導の原理
3	9月	看護学生の動向と看護教育の現状
4	2月	まとめ

集合研修よりレポート提出へ変更

実習学生はコロナ禍で、病院実習が十分にできていないという背景があり、コミュニケーション能力や看護技術に不安を抱いていたという感想が多かった。学生の背景を知り、病棟指導教官、実習指導者、スタッフと連携をとることが重要でその風土作りの役割が自分にあると再認識していた。

<研修後レポートより>

- コロナ禍の影響で病棟特有の処置の見学機会が少なくなり、またバイタルサイン測定やベッドサイドでの患者との関わりに対して時間制限が設けられた事で、学生の知識や技術に自信が持てなくなっていたようだ。感染拡大により実習そのものが中止となり、計画が中途半端な状態で実施できなかったこともあった。
- 担当教員との情報共有をすることで、学生が目標とする実施可能な技術について共有できた。

まとめ

- 学生の環境がオンライン授業が中心となり、臨地実習の場において直接的なコミュニケーション支援の課題がみえてきた。実習指導者は、実習での学びを最大限支援する姿勢で実習指導に当たっている。
- 学生の学びの支援、学生と患者、学生と病棟スタッフとの調整、そして感染防止に配慮しながら効率的に実習を進める点において、実習指導者の役割は重要性が増している。
- 次年度も、変化する状況に対応しながら役割を担うことが出来る指導者の育成と、実習の受け入れ体制を整えることに実習指導者育成WGとして活動していきたい。